

2 研究の実際 > (2) 活動プログラムの実際 > エ 活動プログラムの実践

<小学校> 活動プログラム①怒りについて知る



ペアやグループを意図的に構成して、実践しました！

1 活動プログラムの展開案において、グループでの活動がある場面を確認しました。

【活動プログラム1時目の展開案より】	【活動プログラム2時目の展開案より】
<p>(3) 「怒りの温度計」についてグループで話し合う。【10分】</p> <p>【スライド6】 ○グループの人と「怒りの温度計」がどのくらいになったか交流しましょう。</p> <p>・個人で記入させ、その後グループで話し合わせることで様々な考えがあることに気付かせる。</p>	<p>【スライド10】 ○今日の学習の気付きや感想を、発表しましょう。</p> <p>・自分が怒っているとき、体や心の中でどんなことが起きているかがよく分かった。 ・怒りのコントロールの仕方、「カウントアップ」がやりやすそうなので、使ってみよう。 ・「深呼吸」は普段から使っていることに気が付いた。怒りが爆発しないようにしていたことが分かった。</p> <p>・ふりかえりシートに記入したことをグループで発表し合った後に、全体の場で発表させる。 ・机間指導をしながら児童が書いている内容を確認して、発表する児童がない場合はそれを紹介してもよい。</p>
<p>【スライド7】 怒りの温度を友達と比べてみて、気付いたことや感じたことを発表しましょう。</p> <p>・怒りの温度は、人によって違っていた ・人によって、怒りの感じ方は違う ・怒りの温度が同じくらい出来事があった</p> <p>○同じ出来事でも怒りの感じ方は人によって違います。逆に、誰もが似た感じ方をする出来事もありました。</p>	<p>学習活動5 本時の学習を振り返る</p>
<p>4. 本時の学習を振り返る。【10分】</p> <p>【スライド9】 ○今日の学習を振り返ります。ふりかえりシートに記入しましょう。</p> <p>・今日の学習の気付きや感想を、発表しましょう。 ・同じ場面でも温度が高い人もいれば低い人もいることが分かった。 ・場面によっては、同じくらい温度になるものもあった。 ・人それぞれ怒りの感じ方が違うから、友達と話すときに思い出すと、やさしく話すことができそう。</p> <p>・ふりかえりシートを記入したことをグループで発表し合った後に、全体の場で発表させる。 ・机間指導をしながら児童が書いている内容を確認して、発表する児童がない場合はそれを紹介してもよい。</p>	<p>学習活動3 「怒りの温度計」について考える (3) 「怒りの温度計」についてグループで話し合う (4) 「怒りの温度計」を比べての気付きを発表する</p> <p>学習活動5 本時の学習を振り返る</p>

資料1 活動プログラム1、2時目におけるグループ活動の場面

2 「がばいシート」と「Q-U」アンケートを実施しました。

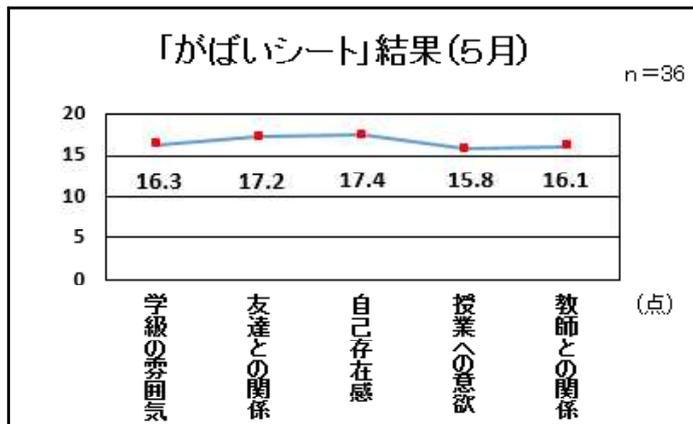


図1 「がばいシート」結果(5月)

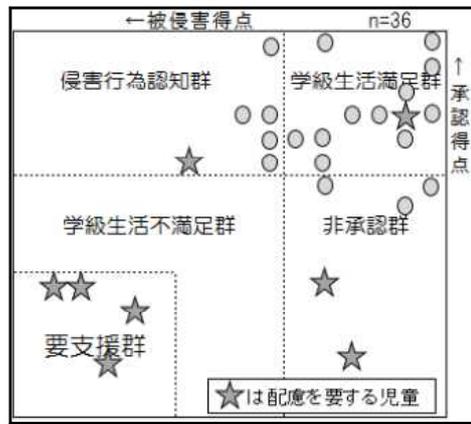


図2 「Q-U」アンケート結果(5月)



3 学習のねらい及び「がばいシート」と「Q-U」アンケートの結果から、以下のようなグルーピングのための視点を挙げました。

- 怒りの理解や怒りへの対処法の学習を通じた自己理解と他者理解を深めるため
 - ・日頃の交流がなく、関わりが少ない児童同士を組む。
 - ・男女2人ずつの4人のグループを組む。
- グループでの活動が停滞しないようにするため
 - ・友達との関わりが苦手な児童と、友達に対して柔らかい言動で接するなどの気遣いができる児童を組む。
 - ・「怒りの温度計」がどのくらいになったかを伝え合う活動とグループでの気付きや感想を交流する活動を行うため、話し合いの進行ができる児童をグループに配置する。



4 「グルーピングのためのアセスメントシート」を活用して、「Q-U」アンケートの結果と担任の観察を基にして総合的にアセスメントし、グルーピングを行いました。

※資料2は、個人情報保護のため、一部データを加工しています。

グルーピングのためのアセスメントシート (小学校)		「Q-U」アンケートより (〇月〇日実施)							担任等の観察 (〇月〇日現在) ※該当する項目にチェック <input checked="" type="checkbox"/> をしてください					【取扱注意】 グルーピング ※普段、関わりが少ない児童同士を組み合わせる		
		友達関係			学級の雰囲気				合計得点 (12点以下にチェック)	「怒り」について知る		この一週間で、トラブルがあった	友達との関わりが苦手である		友達に対して気遣いができる (◎か○を付ける)	(備考) ※グループピングに関する担任の見取りを記入する (例) 要支援群(「Q-U」アンケート)、不登校傾向〇〇さんとは×、事前説明が必要、◇◇に在籍 など
		見られた	この一週間で、イライラした様子が	傷付けたときに、暴れたり、人やモノを	怒ったときに、	傷付けたりする	些細なことで、怒りやすいタイプである									
No.	氏名															
1	〇〇 〇〇	4	4	3	4	4	3	22						◎		
2	〇〇 〇〇	2	4	2	4	4	2	18				✓			不満足群	
3	〇〇 〇〇	3	4	4	4	3	3	21	✓	✓		✓	✓		OONG	
4	〇〇 〇〇	2	4	3	4	4	3	20	✓		✓		✓			
5	〇〇 〇〇	4	4	3	4	4	3	22								
6	〇〇 〇〇	4	4	4	4	4	4	24				✓		○		
7	〇〇 〇〇	4	4	3	3	3	3	20								
8	〇〇 〇〇	4	3	3	4	4	4	22	✓			✓				
9	〇〇 〇〇	4	4	4	4	3	3	22	✓		✓	✓	✓			
10	〇〇 〇〇	4	4	3	4	4	4	23								

資料2 「グルーピングのためのアセスメントシート」を活用したグルーピングの実際



5 実際の座席は、以下の点に気を付けて配置しました。今回、配慮した児童は8名です。

※資料3は、個人情報保護のため、一部データを加工しています。

- ・話し合い活動を進めることができる児童を、可能な限り各グループに配置する。
- ・これまでのグループ活動において友達同士のトラブルがあり、関係が修復されていない児童同士の組合せを避ける。
- ・配慮を要する児童を含むグループは、教室前方に配置する。

		かわりやや△	◎			◎(気遣いリーダー) ★配慮
★	非承認	★	非承認・意欲不足	◎	しっかり者	◎
		◎		★	不満足・多動	★
◎	★		◎		◎	◎
ゆったり	要支援・弱強い					トラブル多い
		★	要支援 トラブルメーカー	★	要支援	★
教室						

【座席表上の記号】

◎(気遣いができる児童)

- ・リーダー性がある
- ・しっかり者
- ・ぼかぼかさん

★(配慮を要する児童)

- ・おこりんぼさん
- ・イライラさん
- ・トラブルが多い

資料3 座席配置の実際



6 実際の授業は、以下の通りです。

過 程	●配慮の実際	・児童の反応や教師の気付き
【授業前】	<p>●要支援群の児童(配慮した児童)がいるグループに、リーダーシップをとることができる児童や気遣いができる児童を優先的に配置した。なお、要支援群の中でも被侵害得点の高い児童を優先的に配慮した。</p> <p>●授業当日の朝、担任から児童に主な学習内容とそれに伴った座席配置について伝えた。</p>	<p>・児童の反応や教師の気付き</p> <p>・座席配置については、黒板で学級全体に対して座席表を掲示して説明した。そのため、座席の変更についてはスムーズに進めることができた。</p> <p>・学習内容によっては、当日の朝よりも以前に知らせたり、学級通信等で家庭にも連絡しておいたりするなどの必要がある。</p>
【授業中】	<p>●グループ活動で机を寄せ合う場面で、男女がバランス良く交わるように座席を配置することとした。特に、配慮した児童については、元の座席の場合でも机を寄せ合う場合でも、気遣いができる児童ができるだけ隣に位置するように配置した。</p>	<p>・グループ活動において、活発な話し合いが見られた。</p> <p>・配慮した児童は、グループ内の友達から柔らかい口調で促されたり、発言後に拍手をもらったりして、笑顔で活動することができていた。</p>



【グループ活動の様子】

自分の怒りの温度を知って
もらって良かった。



【配慮した児童の感想】

【授業後】

●配慮した児童の様子を観察し、必要に応じて声掛けをした。

- ・授業後も、配慮した児童と一緒に活動した友達と会話を交わす場面が見られた。
- ・授業後、友達とトラブルになりそうな場面で、授業内容を想起させるような声掛けをしたところ、配慮した児童は比較的落ち着いて話を聴くことができたと感じた。
- ・学級通信等で、授業の様子や児童の反応等を家庭に知らせ、家庭での声掛けをお願いすることも大事だと感じた。

実践してみたら、このような児童の姿が見られました！

◆授業後の児童の反応(「グループ活動アンケート」・「振り返りシート」より)
 ※配慮した児童は8名で、グラフ上に人数()で示しています。

○グループ活動における児童の友達に対する意識の変化について
 ・「グループ活動アンケート」の質問項目に対する児童の回答の結果
 ※配慮した児童は8名(1名無回答)で、グラフ上に人数()で示しています。

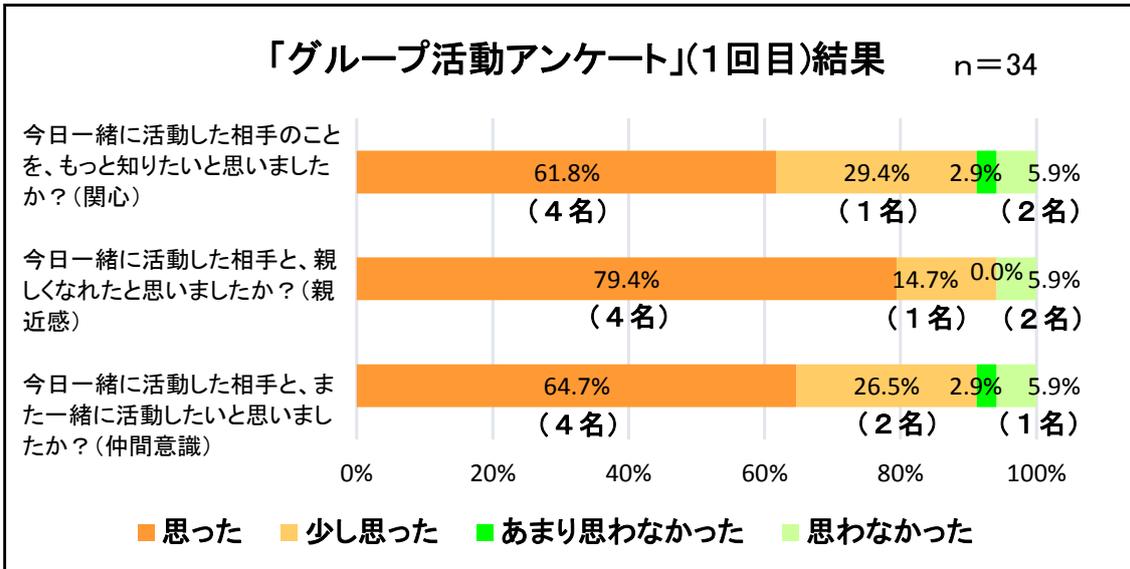


図3 「グループ活動アンケート」(1回目)結果

・配慮した児童の感想



このクラスは優しい人が多いなと思いました。
 いろいろな意見が聴けて良かったです。

○グループ活動で取り扱った「怒りについて知る」の学習について
 ・「振り返りシート」の質問項目に対する児童の回答の結果
 ※配慮した児童は8名で、グラフ上に人数()で示しています。

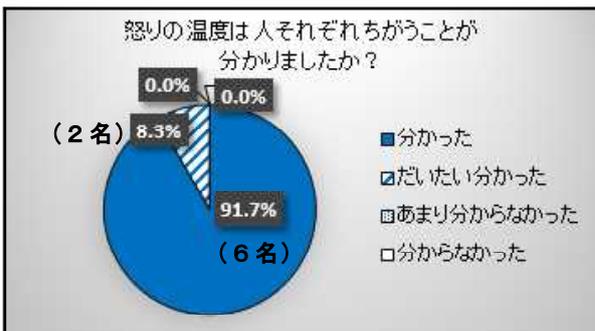


図4 怒りの感じ方はそれぞれ違うことについて(1時目)

・ 児童の感想



みんながどんなことで怒りやすいのかが分かって良かったです。

同じ場面でも、グループの友達と温度が違っていることが分かって、びっくりしました。



○グループ活動を取り入れた学習への参加状況と学習内容に対する活用意欲について
 ・「振り返りシート」の質問項目に対する児童の回答の結果
 ※配慮した児童は8名で、グラフ上に人数（ ）で示しています。

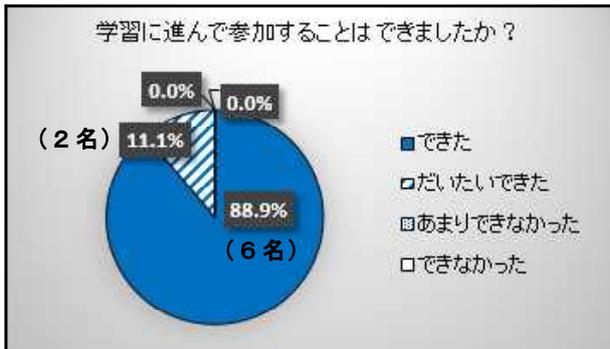


図5 学習への参加状況について (1時目)

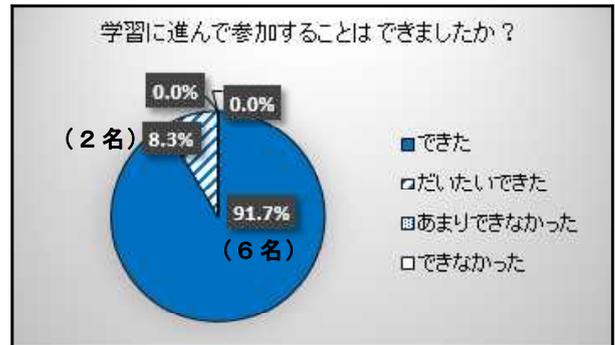


図6 学習への参加状況について (2時目)

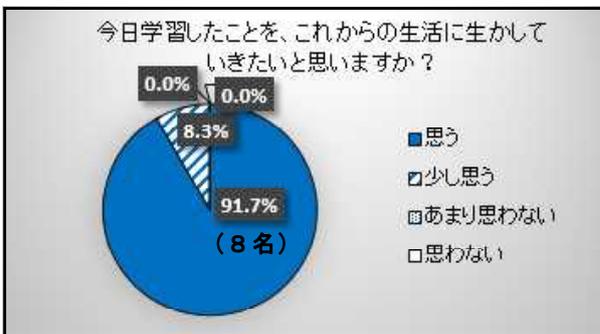


図7 学習内容に対する活用意欲について (1時目)

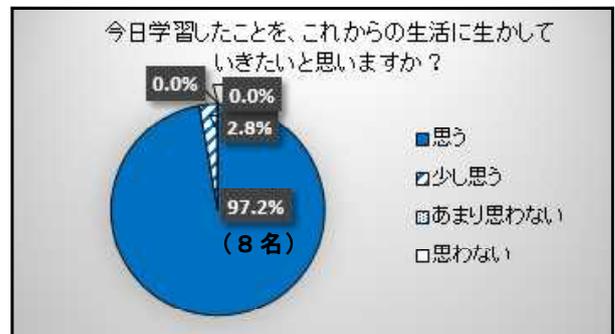


図8 学習内容に対する活用意欲について (2時目)

・ 児童の感想



私は友達と比べて怒りやすいので、習ったことを生かして、自分の怒りをコントロールしていきたいと思います。

場面によって怒りやすい人や怒りにくい人がいるので、相手の気持ちを考えようと思います。



◆授業後の教師の感想



1時目の自他理解の学習を通して、相手目線に立つ態度の芽生えを感じました。

2時目では、トラブルが起きたときに自らカウントアップや深呼吸を試みる児童の姿が見られました。また、ケンカをしても読書をしたり一人になってクールダウンをしたりと、自分なりの怒りへの対処法を実践している様子も見られました。

配慮した児童の「グループ活動アンケート」には、「自分と同じことや違うことを書いて楽しかった」という記述が見られました。グループ活動を通して自他理解につながる学びになったと考えます。